

令和2年9月7日

丸の内サディスティック進行はどうしてよく使われるのか

東放学園音響専門学校 2年Cクラス 123 三上 桃花

目次

- 1, 研究動機
- 2, 丸の内サディスティック進行とは
- 3, 研究前の予想
- 4, 調査方法
- 5, 検証結果
- 6, 分析
- 7, まとめ

1, 研究動機

ある時、好きなアーティストが歌の生放送しており、そこで曲のinstに違う曲をそれに合わせて歌い、「この曲は丸の内進行だから同じコードなら大体なんでも合う。」と言っていたことから、興味を持ち始めた。

また、最近ハマっているアーティストの出している曲のほとんどが「丸の内サディスティックと同じコード進行だよ。」というツイート(現在は消されてしまっている)でさらに気になり、私自身、椎名林檎や東京事変が好きなので、このテーマにすることに決めた。

2, 丸の内サディスティック進行とは

「丸の内サディスティック」は、椎名林檎の1999年2月24日に発売されたアルバム『無罪モラトリウム』に入った一曲。

その曲に使われているコード進行で、椎名林檎のその他の楽曲にも使用されていることから、椎名林檎進行とも呼ばれる。主に日本で呼ばれている総称である。

元祖はGrover Washington Jrの「Just The Two Of Us」という楽曲でJust The Two Of Us進行とも呼ばれている。

Key=E♭

A♭maj7—G7—Cm7—B♭m7—E♭7

IV—III—VI—V—I

3, 研究前の予想

曲によって異なるが、このコード進行を使っている曲は、イントロからサビまでコード進行が変わらない場合が多いと感じた。よって、使いやすくお洒落にできるということから、使用されることが多いのではないかと考える。

また、全てのコードに^{セブンス}7が付くことに理由があると考えた。

4, 調査方法

- ・アンケート

『かえるのうた』につけたコード進行での聴き比べ

①カノン進行

C—G—Am—Em—F—C—F—G

I—V—VIIm—IIIm—IV—I—IV—V

②Let It Be進行(感動コード)

C—G—Am—F

I—V—VIIm—IV

③小室進行

Am—F—G—C

VIIm—IV—V—I

④丸の内サディスティック進行

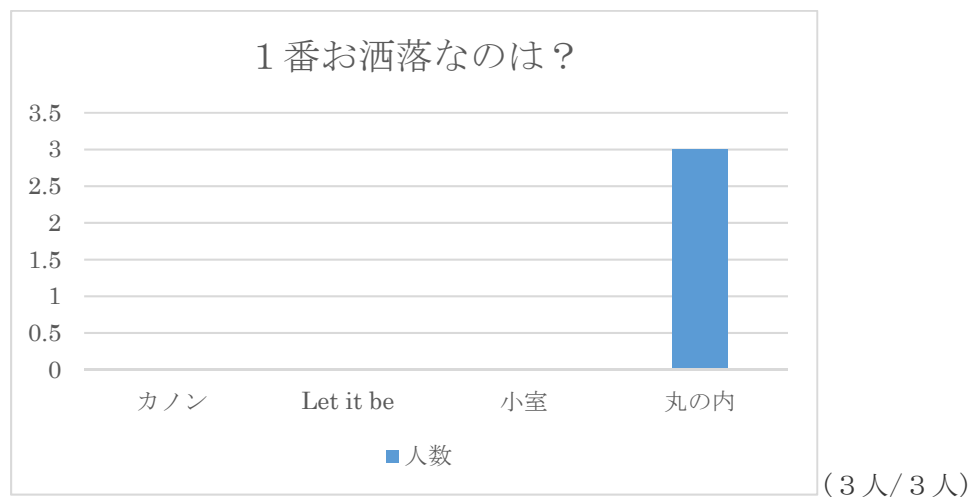
A^b maj7—G7—Cm7—B^b m7—E^b 7

IV—III—VI—V—I

コード進行の名前は伏せ、音だけを聞かせ、「どれが一番お洒落に聞こえる？」というアンケートを取ることにした。

5, 調査結果

結果、全ての人が丸の内サディスティック進行を選んだ。



アンケートで、④(丸の内サディスティック進行)にした理由を聞くと、「^{くだ}下る感じ」「聞き馴染み」という答えがあった。

6, 分析

コード進行を分析してみた

丸の内サディスティックのコード進行は

Key=E ♭				
A ♭ maj7—G7—Cm7—B ♭ m7—E ♭ 7				
(IV	III	VI	V	I)

である。

A ♭ maj7→G7

Key=E ♭ のダイアトニックコードは

E ♭ Fm Gm A ♭ B ♭ Cm Dm-5

G7はダイアトニックコードに含まれていないノンダイアトニックコードである。

G7はKey=Cのダイアトニックコードになる。

そのため、A ♭ maj7はG7に移る際、4度下に転調したことになる。

このことが、アンケートで調査した理由の部分で「下る感じ」がお洒落だという回答に繋がったと考えられる。

G7→Cm7

Key=Cのダイアトニックコードは

C Dm Em F G Am B-5

この場合**G**はドミナント(属音)なので次にきたがるコードは、トニック(主音)である**C**です。

これはドミナントモーションと呼ばれる進行になります。特徴として、解決感。例えば終礼の礼をする2番目の音から、上体を起こす3番目の音に移る時のような動きです。

しかし、**C**で解決感を生み出すだけでなく、**マイナー7**で完全には終わらない、大人っぽい雰囲気になっていると考えられる。

B♭m7→E♭7 | →A♭maj

A♭majを基準にすると、**B♭m7**はⅡ度、**E♭7**はⅤ度、最初に戻って**A♭maj**はⅠ度となっている。この進行は所謂ツー・ファイブ・ワン進行と呼ばれているもので、文字通りⅡ→Ⅴ→Ⅰのコード進行である。また、**B♭m7→E♭7**はマイナーからメジャーに移るのでフレーズ終わりは明るくなる。そして、そのフレーズの終わりに来る**E♭7**は**A♭maj**のドミナントであるため、最初の**A♭maj**に移る動きはドミナントモーションになる。

7, まとめ

ダイアトニックコードだけのコード進行ではなく、ノンダイアトニックコードを使っでの転調を用いること。解決感を生み出すだけでなくドミナントモーション。また、一つのフレーズだけでなく、次のフレーズに繋がるようにツー・ファイブ・ワンの構成になっている。そのため、同じコード進行を繰り返しやすくなり、多くの人が好んで使っているのではないだろうか。それから、メジャーとマイナーを交互に組み合わせることにより明るい雰囲気でありながら大人っぽさを醸し出すことが可能だと考えられる。

今回の研究でコード進行の奥深さを実感した。完全に分析できるようになるには、他のコード進行やテクニックについても理解を深める必要があると感じた。今後コード進行にたくさん触れ、曲のコード進行が頭に浮かぶようになるまで突き詰められるようにしたいと思う。